

no.387

01

2026.01.1

発行：みなと元町タウン協議会 住所：〒650-0022 神戸市中央区元町通 3-13-1 協和会館内  
発行人：片山泰造 編集人：平松日出雄 電話・FAX:078-391-0831 表紙写真：中多英二

季刊

みなと元町  
タウンニュース  
TOWN NEWS

おっ！散歩

- 街角川柳とエッセイ -

木蓮に昔ばなしを

する煉瓦

詠人 喜康

「マグノリアの花たち」という映画が、あったような、、、。けれども、どんな内容だったのか、あまり記憶にない。元町商店街の東側、今は、誰も気がついていない人はいない街路樹、モクレン。それはそうだね、愛想のない、ただの枯れ木にしか見えないもの、、、。それが、春の気配すらない寒風の中で、その枯れ木のような枝にぷっくりとかわいいツボミが付いている。でも、誰も気にも留めない。

それが、暖かくなって、知らぬ間に、どんなツボミが大きく膨らんで、一気に咲き始めるとびっくり。和紙で組み立てた行灯のような花になる。

元町商店街をどんどん西に進んでくべまちづくり会館あたり。もっと驚く。艶やかで大きくて、まるでチューリップのような紅モクレンが現れるのだ。

マグノリア、和名はモクレン。すっきりと上を向いて咲いて、そして、あっという間に、その9枚の花弁を、はらりと惜しげもなく散らす。

「マグノリアの花たち」、映画をもう一度見てみようか、強く潔く、そして美しいモクレンの花を重ねながら。

潮崎孝代

開港5都市景観まちづくり会議 2025  
神戸大会、無事閉会

合資会社ゼンクリエイト 根津昌彦

みなと元町タウン協議会には、神戸市が認定する3つの景観形成市民団体（栄町通まちづくり委員会、神戸元町商店街まちなみ委員会、もとまちハーバー懇談会）が下部組織として存在している。また、景観計画の運営を司っている南京町景観形成協議会もタウン協エリア内の景観形成市民団体であり、以上4団体が、2025年11月29日、30日、12月1日の3日間開催された「開港5都市景観まちづくり会議 2025 神戸大会」に参加した。幕末に神戸と時を同じくして開港した函館・新潟・横浜・長崎からの参加者をおもてなしし、『神戸のいま』をしっかりと感じとっていただくべく、景観形成市民団体からの参加メンバーは、本大会のメインテーマである「してきたコト、これからするコト」のもと、約4か月にわたって企画・準備段階から当日の運営に至るまで大奮闘された。私も6つの景観形成市民団体への派遣アドバイザー・コンサルタントの立場と、30年前の阪神・淡路大震災を経験した者として深く関わらせていただいた。

今回の2025神戸大会の詳しい報告は、同じ開港5都市のまちづくりの仲間である「THE HERITAGE TIMES YOKOHAMA KANAGAWA」(<https://www.heritagetimes-yk.com>)のホームページに譲り、本紙では私が担当した大会1日目のウェルカムパーティーと2日目の第3分科会について記したいと思う。

各都市の参加者をおもてなしするウェルカムパーティー会場は、前回の神戸大会同様、相楽園園内にある「THE SORAKUEN」1階パークスイートでした。私は、神戸元町商店街まちなみ委員の高村昌幸氏と共に司会進行役を仰せつかった。曹英生大会実行委員長の主催者挨拶、小松恵一神戸市副市長の主催都市挨拶の後、「神戸灘の酒による乾杯を推進する条例」に則り、神戸酒心館の「福寿 純米吟醸」で高らかに乾杯し、宴がスタート。兵庫の地元の食材を使ったコース料理に舌鼓を打ちながら、テーブルごとに笑顔の花が咲いていた。各都市からのお土産物の紹介コーナーでは2人体制の進行を活用し、高村氏がスタジオアナ役を私が現地



フェジヨン・プレットのリードで大盛り上がり  
(参加者のFacebook投稿より転載)



リポーター役となり、試食コメントを交えながら楽しく名産品を紹介した。その後、各都市の挨拶が終わると、今回の目玉として、神戸を代表するサンバチーム Feijao preto（フェジョン・プレット）による本格的なサンバを披露した。パフォーマンスの仕上げでは、参加者全員が輪になって踊る踊る！会場内の気温が5度ぐらい上がったのではないかなと思うほど凄まじい熱量で、異様なまでの盛り上がったのであった。締めくくりに開港5都市のテーマソングを大合唱し、松岡辰弥副実行委員長の挨拶でお開きとなり、1日目が無事終えることができた。



1995年1月17日の大震災当日の航空写真を用いて被災状況を説明する筆者（参加者のFacebook投稿より転載）

人と防災未来センターでは、大迫力の映像と音響で5時46分の衝撃を再現したムービーや原寸大の震災直後の空間を再現したジオラマを見た後、震災関連資料を提供者の体験談と共に展示している記憶継承フロアを見学。この分科会に参加した神戸のメンバーが他都市の方に対して、それぞれの体験談を交えながら展示物をご案内した。特にがれきの中から取り出された品々には、参加者の目が釘付けとなり、あらためて尊い命を一瞬にして奪ってしまう自然の脅威が強く心に刻まれたのではないだろうか。

施設見学を終えた後、チャーターしたタクシーに分乗して新長田へ。昼食会場である蓮池公会堂に到着すると、ここでも震災の追体験をいうことで、炊き出しで作った豚汁と老祥記の豚まんを振る舞い、デザートは震災ですべての食器が割れたのにこれだけは残ったというモロゾフの耐熱容器入りプリンを提供して、新長田駅北地区の復興過程をまとめたビデオを上映しながら、テーブルごとにここまでの行程で感じたことをお話いただいた。その後、新長田の復興まちづくり現場を、新長田のまちづくり協議会会長白石氏、実家が被災し自身は高校で防災を学んだ地元の青年・今井氏と一緒に約1時間かけて、参加者とともに歩きながら確認した。中でも、住宅が建て詰まっていた1街区すべてを地域の防災拠点+子どもたちの遊び場として整備された水笠通公園や、くつのまち長田のシンボルとして建設されたシューズプラザが今日で閉館するというタイミングに訪れた偶然に、復興の成果と厳しい現実を知っていただいたり、いえなみ基準という景観ルールを震災後に策定したからこそのまちなみなど感じていただいた。

まち歩きの後には、もう一度蓮池公会堂に戻り、今日の感想と共に、防災・減災に対して「これからすること・自分ができること」について意見を出し合い、伝えることや人のつながり・コミュニティづくりについて、各都市内でできることを深堀してほしいという曹会長の総会をもって終了した。内容も濃く、参加者もスタッフも、しっかり学んだという実感に満ちた分科会は大成功に終わった。

2日目は、参加者が5つの分科会に分かれ、神戸のいまを体感していただくプログラムが朝9時台からスタート！私は、開港5都市大会の分科会で継続テーマとなっている「防災に関する分科会」の担当を仰せつかり、前日のサンバで少々腕が上がりにくいなあと感じつつ、JR灘駅に集合した。

防災分科会のテーマは、『”あの日”を歩き、“あす”を描く』—記憶と景観で考える防災まちづくり—。震災復興土地区画整理事業によって復興が進められた東部新都心「HAT神戸」内に建設された震災当日の追体験と震災で得た教訓を学ぶことのできる施設「人と防災未来センター」の見学の後、新長田駅北地区の震災復興土地区画整理事業で蘇ったまちを歩くというプログラムを組んだ。

灘駅前に集まった参加者に対して、フリップを使って大震災当日から徐々に復興が進んでいく様子がわかる航空写真を時系列で紹介し、第一の目的地である人防センターを目指して、新たにできた街の様子を見ながら南へ歩いた。



新長田駅北地区の水笠通公園内にある震災前の記憶を伝える石碑

## 元町みなと通信 file.6

### 「ばい捨て防止重点区域」について



（ばい捨て防止重点区域看板）

神戸市では「神戸市ばい捨て及び路上喫煙の防止に関する条例」により、市内全域でばい捨てを禁止し、路上喫煙をしないよう努力義務を定めています。また、市域の中において特に環境の美化を促進する必要がある区域を「ばい捨て防止重点区域」として指定しています。

ばい捨て防止重点区域は、継続的かつ熱心な美化活動の取り組みがある区域を中心に指定を行っており、令和7年12月現在、元町・南京町エリア（元町通1、2丁目、栄町通1、2丁目の一部や元町商店街）など市内で37カ所を指定しています。

ばい捨て防止重点区域に指定された区域においては、啓発看板（写真参照）を設置しているほか、地域の皆様による継続的かつ熱心な清掃活動などにより、まちの美観が維持されています。

また、令和4年度からは、市内37カ所のばい捨て防止重点区域において、啓発指導員による巡回を行っており（写真参照）、啓発ベストを着用した啓発指導員がスピーカーから音声を流しながら巡回を行い、路上喫煙やばい捨て行為を行っている人に対して、個別に注意・指導を徹底するなど、引き続き、粘り強く巡回指導や広報啓発を行い、地域の皆様とともに、ばい捨てのないまち神戸の実現に向けて取り組んでまいります。



（啓発指導員による巡回の様子）

### 神戸市環境局事業系廃棄物対策課



## 神戸のリノベーション建築を巡る

栄宏之 建築設計工房・栄（Sakae）代表 / （公社）日本建築家協会近畿支部兵庫地域会 副地域会長

神戸のまちを歩いていると、新築当初の役目を終え、改修によって新たな生命を吹き込まれ生まれ変わって今も使い続けているリノベーション建築が数多くみられます。現在の営みの中にも過去の建築的な記憶が交差して魅力的な空間として存在しています。



神戸市立博物館（旧横浜正金銀行神戸支店）

「神戸市立博物館」は、その好例です。昭和10年（1935）に建てられた旧横浜正金銀行神戸支店の重厚な石造りの外観は、まちの記憶を今に伝えています。昭和57年（1982）に内部を博物館の展示空間へと刷新しましたが、2階吹き抜けの銀行業務室や格子天井は当時の面影を残しています。現在「大ゴッホ展」が開催中で、世界的な名画と向き合う時間を楽しみながら、芸術と建築の接点も感じとれます。

同じく銀行から生まれ変わった建築として旧チャータード銀行神戸支店（1938）を改装した「チャータードビル」もアールデコ様式の外観が、ほぼそのまま残されています。木製の回転ドアや旧金庫室の扉を残しながらレストラン



チャータードビル（旧チャータード銀行神戸支店）



カフェフロインドリーブ本店（旧神戸ユニオン教会堂）

やカフェとして活用された時期もあったようですが、現在は服飾店舗としてなおも過去の記憶を残しつつ、形を変えながら人々の暮らしに寄り添っています。

また、旧神戸ユニオン教会堂（1929）を改装した「フロインドリーブ」は神戸女学院や関西学院大学の設計を担当した W.M.ヴォーリズの設計で、礼拝堂を改装した2階のカフェでは高い天井やステンドグラスに囲まれた空間で、焼きたてのパンの香りに包まれながら、落ち着いた時間を楽しめます。



神戸北野ノスタ（旧北野小学校）



みなとやま水族館（旧湊山小学校）

最後に小学校をリノベーションした建築として、旧北野小学校（1931）をグルメ複合施設として再生した「神戸北野ノスタ」や、旧湊山小学校からコミュニティ型複合施設の一部に生まれ変わった「みなとやま水族館」などは、各所にレトロな校舎の面影を濃く残しながら現代に活用されています。

神戸市立博物館の「大ゴッホ展」は2026年2月1日まで開催中ですので、普段とはまた違った視点で神戸のまちを歩いてみてはいかがでしょうか。

特別展  
「MOCOコレクション オムニバス  
—初公開・久々の公開— PART1」

会場：大阪市立東洋陶磁美術館  
〒530-0005 大阪市北区中之島1-1-26  
(大阪市中央公会堂東側))  
電話：06-6223-0055 FAX：06-6223-0057  
会期：2025年12月13日(土)～2026年3月22日(日)  
開館時間：9:30～17:00 \*入館は午後4時30分まで  
[12/19(金)は午後7時まで開館(入館は午後6時30分まで)]  
休館日：月曜日、12月28日(日)～1月5日(月)、1月13日(火)、  
2月24日(火) [但し、祝日の1/12(月)、2/23(月)は開館]

白濁釉輪花口水指  
江戸時代(17世紀) / 野々村仁清(御室窯) 高18.3cm、径18.9cm  
大阪市立東洋陶磁美術館(松恵コレクション) 写真：加藤成文

密やかな美  
小村雪岱のすべて

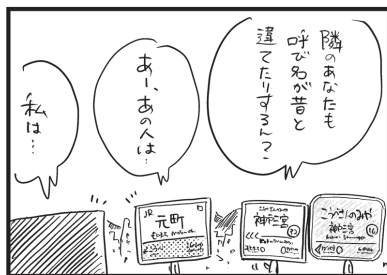
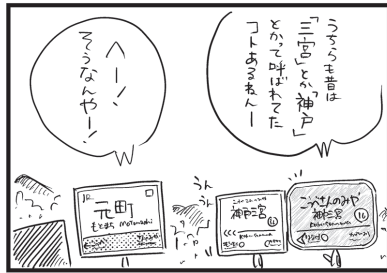
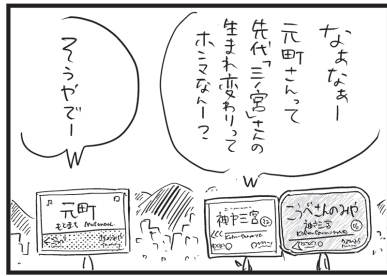
会場：あべのハルカス美術館  
〒545-6016 大阪市阿倍野区阿倍野筋1-1-43 あべのハルカス16階  
会期：2025年12月27日(土)～2026年3月1日(日)  
【前期】12月27日(土)～2月1日(日)  
【後期】2月3日(火)～3月1日(日)  
開館時間：火～金 10:00～20:00  
月土日祝10:00～18:00\*入館は閉館の30分前まで  
休館日：12月31日(水)、1月1日(木)、2月2日(月)  
\*会期中、展示替えがあります

【通期展示】  
《河庄》昭和10(1935)年頃 絹本着色 福富太郎コレクション資料室蔵

読者プレゼント

観覧ご希望の方は、住所・氏名・年齢・本紙への一言を添え、本紙編集部までハガキでお申し込みください。先着順でペア招待券をお送りします！





※都合により従前号を再掲しています。

## クリーン作戦

### 栄町通クリーン作戦

毎月第2金曜日午前10時、栄町通6丁目佐田野不動産前集合の上、実施しています。お気軽にご参加ください。



左から

10月10日、11月14日、  
12月12日

#### 参加企業

神明倉庫(株)、新光明飾(株)、兵庫県信用組合、広島銀行、佐野運輸(株)、のじぎく興産(株)、佐田野不動産(株)、こうべまちづくり会館

### ハーバーロードクリーン作戦

エスタシオン・デ・神戸



10月8日6名

11月13日6名

→12月3日7名(就労移行支援事業所 PEAKS の皆様も清掃に参加してくださいました)

ネッツトヨタ兵庫(株)



10月1日19名

11月5日20名

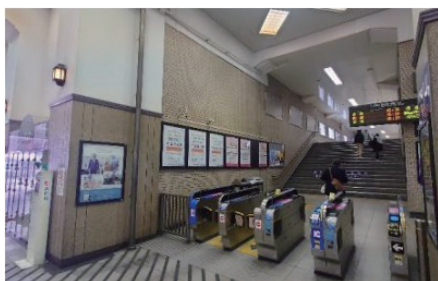
12月3日14名



## 元町みなと通信 file.7

### JR 元町駅バリアフリー工事について

西日本旅客鉄道株式会社



元町駅は、1874年(明治7年)に神戸駅から大阪駅間で官営鉄道(現在のJR西日本)が営業を開始し、「三ノ宮駅」として現在の元町駅付近に設置されました。線路の高架化に伴い三ノ宮駅が現在の場所に移転した後、地元の方々からの要望を受けて、1934年(昭和11年)に現在の位置に「元町駅」が設置されました。乗車人員は2024年度の1日平均で約3万2千人となっており、神戸駅と三ノ宮駅の間に位置する神戸都心エリアのまちづくりにおける重要な場所です。

このたび、元町駅東口のバリアフリー化に着手することとなり、1階から中2階へ上がる階段を西側へ移設し、1階から上り・下り各ホームへ移動できるエレベーターおよび上り専用エスカレーターの設置を予定しています。従来は西口にしかなかったエレベーターが東口にも設置されることで、より多くの利用者の皆さまに、安全で円滑に移動していただけるようになります。

現在、2025年度内の着工および2028年度の竣工を目標として、詳細な検討を進めております。仮改札の設置など、大規模な工事となることから、工事期間中は、ご利用のお客さまや近隣の皆さまにはご不便やご迷惑をおかけすることがございますが、元町駅の利便性向上のため、また、安全を最優先に進めてまいりますので、ご理解とご協力を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

写真：現在の元町駅